



International Festival
でソーラン節を披露した
際に知人ファミリーと

留学先
モンタナ
大学
(米国)
2012年8月~
2013年5月

飯室 美菜さん

一般財団法人日本スタジアムプロモーション
デーション [以下JSAF] (留学アドバイザー) 勤務

留学中のカルチャーショックもプラスに捉えて就活でアピール

皆さんが想像以上に留学経験者が多いのが現状です。就活で有利に...などと考えているだけでは周りの人に追い抜かれてしまうかもしれません。ホテル業界やエアライン業界では英語力や留学経験は当たり前になってきているため、留学先で語学力以外にどんな経験をして何を学んだか、それがどう仕事に繋がるかなど具体的に話をすることが大切だと思います。エアラインの採用面接では「空港で必要とされているおもてなしとはなにか」という質問されることがあり、「笑顔で相手の目の高さに合わせて・・・」などと回答する人もいます。しかし、空港は決して旅行など楽しい目的で来ている人だけではありません。相手がどういう感情でどういう立場で空港に来ているのかを会話や表情から読み取って対応を変えていく必要があると思います。もし仮にホテル業界やエアライン業界で働きたいと思っている人が語学力を高めて外国人のお客様をおもてなししたいから留学するというのは理由に乏しいように思います。外国籍の方は多いですが全員が英語圏ではないので、最初から英語で話しかけると失礼になることもあるため、広い視野や思考を持って対応することが大切です。留学中は「こんな考え方もあるのか」と驚くことも多いと思いますが、それをプラスに考えて就活でアピールするのがいいと思います。

留学したことを後悔した人はいない

これだけ多くの留学経験者がいる中で留学をしたことを後悔している人を見たことがありません。ありきたりですが本当に留学して良かったと思います。留学をしていなかったらきっと毎日「留学したいな」と思って過ごしていたかもしれません。留学中に会った素晴らしい友人や知り合いに巡り合うこともなかったでしょうし、JSAFで働くことも絶対になかったでしょう。今となっては留学していない自分は想像ができません。留学は社会人になってからでもできますが、選択肢の多さや時間のことを考えるとやはり学生のうちに留学することをおすすめします。留学はとても楽しいです。それ以上に苦しいことも大変なこともあると思いますが、しっかりと目標があるのなら絶対に乗り越えられることができます。留学前は全然知らなかったことを留学中に学ぶことができます。日本にいただけでは絶対に経験できないことを経験することができます。どん欲になって色々なことを吸収してください。悩んでいる人は一歩踏み出してみてください。素晴らしい経験ができます。

留学で身につく生活力や人間力

私はホテルやエアラインで働いた後、ご縁があってJSAFで働かせていただくことになりました。成蹊大学と深い関わりのあるJSAFで昔の私と同じように留学を検討している学生の役に立ちたいと勉強の日々です。留学は、語学力はもちろん、親元から離れて自分のことは全て自分でやることで生活力や人間力を上げることができます。私自身も在学中はJSAFプログラム留学をしたので、留学を検討している学生を見ると過去の自分を重ねることがあります。留学を経験しているからこそそのアドバイスをすることができるため、そういう意味で今の仕事は留学の経験が大きく活かされています。



教師さんファミリーに日本食をふるまいました



SEIKEI
INSTITUTE FOR
INTERNATIONAL
STUDIES

SIIS

成蹊学園 国際教育センター

Vol.
25

NEWS

2017.4



留学経験を活かした キャリア形成

インタビューは中面・裏面にもあります

近年、あらゆる場所でグローバル化が加速し、異文化を理解・尊重し、世界で活躍することができる人材を意味する「グローバル人材」という言葉を耳にするようになりました。将来世界で活躍できる国際人を育てるためのひとつの有効な手段が海外留学とされ、文部科学省も留学促進キャンペーン「トビタテ! 留学 JAPAN」に力を入れています。

今号では、学生時代に中・長期の留学を経験した卒業生に、留学経験が社会人になってからの仕事や活動におけるキャリア形成にどのように活かされているかをインタビューしました。留学を経験した先輩たちは、留学で得た語学力だけではなく、語学というツールで何ができて、どう貢献できるかを就職活動でアピールすることが重要だと振り返ります。ぜひグローバル人材になるべく留学に挑戦し、就活やキャリア形成の参考にしてください。

成蹊大学の留学制度や手続き
奨学金に関する情報がわかる

海外留学ガイド 2017

国際教育センターにて配布中!

留学を考えている学生へメッセージ

留学は変化の激しいグローバル時代において最高の自己投資

今から18年前、私は大学2年の時に、初めてオーストラリアで1年間交換留学を経験しました。移民大国の上、留学大国であるオーストラリアの大学では、多くの社会人や留学生がキャリアアップやキャリアチェンジを目指して学んでいました。そうした多様性に富むクラスメートと触れ合うことを通して、長い人生において、転職など方向転換をすることが当たり前な世界があるということを感じました。その頃の日本は新卒の就職先が永く就職先という価値観が根強い時代だったので、オーストラリアで出会った人々の人生やキャリアの捉え方に衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。それから約20年、日本社会においても転職が当たり前な変化の激しい時代になっております。その上、グローバルに動くことが当たり前のように求められている時代において、留学という投資は、その後の長い人生やキャリアにおいて多くのリターンをもたらしてくれるでしょう。留学を悩まれる学生の多くが費用と卒業時期の延期などのロスを懸念されているようですが、“When there is a will there's a way!”。私自身も同じような悩みを持っておりましたが、短期的なロスは、長期的にはプラスになることを身をもって実感しております。留学は人生で最高の自己投資であることを信じてチャレンジしてください。

オーストラリア大使館
主席商務官 (教育)
市川 智子氏

須藤 彩子さん

学生時代に2度の留学を経験。1度目はマンチェスター大学 (英国) で中期協定イ
ンターンシップ留学 (2007年9月~2007年12月)、そして2度目はグリフィス大学
(オーストラリア) にてTourismやInternational Marketing, Introduce to Asiaな
どの専門科目を学ぶ (2009年2月~2010年2月)。卒業後は、政府の地域活性化事
業などインバウンド観光に従事。現在は新しい会社 (事業) を立ち上げ中。



留学中に友人と



インドネシアから
受入れた里山ステイ



プリータンでは公の場での民族衣装
着用が義務付けられています

留学を経験したからこそ、 今の自分がある

留学という経験から外から見た日本の魅力を改めて感じ、より多くの海外の方に日本を紹介したいという情熱から、インドネシアやブータン政府からいらした方々に日本の里山にステイしていただき、日本の魅力を伝えながら町興しなどの地方再生や活性化を支援する地域活性化事業といったインバウンド事業に携わっています。この「様々な地域で、様々な層や立場の方と対話を通して、より良いコミュニティーを築いていく」というキャリアのなかで、留学を通して得た「コミュニケーション力」はとても重要な役割を果たしていると感じています。何より、多様性 (それは自分とは異なる “他人”) のいる社会) を受け入れ、敬意を払い、理解をした上で自分をしっかり持って働きかけるという姿勢は、海外 (異国) で得た大きな学びであり、キャリアはもちろん、一人間として活かされています。これまでのキャリアを活かし、今後は新しい事業を立ち上げるべく奮闘しています。

留学を通じて何を学ぶかが大切

私にとって、学生時代の留学は「人生を180度変える経験」でした。留学中に習得した語学というツールが強みとなり、海外のどこへ行っても不自由なく過ごせるだけでなく、どんなシチュエーションでも怖気づくことなく、自信を持って自分の意見を主張することができるようになりました。この留学のおかげで、世界各国の大切な友人がいると信じています。間違いなく私の一番の思い出であり、人生の糧となっています。就職活動では、「留学に行った」という事実自体をアピールするのではなく、「留学を通して、自分は何を学んだのか、その学びを通してこれから社会にどう向き合い、何を伝えていきたいのか」をアピールしたように覚えています。笑っても泣いても、学生時代は一度だけです。そして、留学ができる環境にあるということはとても恵まれていることだと思います。ぜひ新しい世界、広い世界を自分の肌と心で感じてみてください。

2017年度前期受入れ 協定留学生紹介

海外の協定校4校より5名の協定留学生を受入れました。

チェンマイ大学 (タイ) ワスガン ウンスック

上海交通大学 (中国) リ ネイケイ
上海交通大学 (中国) キ イイテイ
華東政法大学 (中国) シュウ シキン

ウェスタン・ワシントン大学 (アメリカ) サプリナ キャスリーン ウィルソン





留学時に参加したボン大学のオーケストラで

佐賀 由佳子さん

中東系航空会社 (客室乗務員) 勤務

留学先
ボン大学
(ドイツ)
2011年3月~
2012年2月

留学経験を機に客室乗務員に

社会人になって振り返ると、留学期間は夢のような時間でした。戸惑うこともたくさんありましたが、失敗したこと辛かったことを含めすべてがかけがえのない経験だったと胸を張って言えます。留学をきっかけに、もっと海外で暮らしてみたい、働いてみたいという願望が強くなったので、グローバルな環境で働くことのできる今の仕事に就けて満足しています。居住地である中東をベースとして様々な国に行くため、海外に居住する適応力があり、グローバルな視点を持ち、様々な人種の人々に対応できることを就活でアピールすることができたのも留学があったからです。日本と全く違った広い世界があることを肌で感じ、世界をもっと知りたいと思えたきっかけをくれた留学を経験できたことに感謝しています。

選択肢は無限

限られた大学生活の中で、様々なことを犠牲にして留学に踏み出すことは勇気があることだと思います。しかし長い人生の中でたった一年だけでも海外で暮らして学ぶことは、一生のかけがえのない経験となります。その後の就活だけでなく、人生で様々な選択をしていくうえで大きな影響を与えてくれることなのでしょう。私にとって海外で出会った外国人・日本人との交流が留学後の生活の中でとても大きな役割を果たしています。留学は、少しの勇気と思い切った決断で、自分の知らない世界に触れ、大きく成長するきっかけを与えてくれます。留学後には今まで以上にたくさんの選択肢が待っているでしょう。ぜひこの学生であるチャンスを逃さず、チャレンジしてみてください。心より応援しています。



留学して得たグローバルな適応能力

現在、私は中東をベースに客室乗務員として働いており、100の国籍を超える様々なバックグラウンドを持つ同僚と共に、世界130ヶ国へと渡航しています。同僚を始めお客様も外国人なので仕事上の共通言語は英語です。定期的にドイツ線をオペレートするのですが、中東の航空会社でおかつアジア人の私が少しでもドイツ語を話すと、ほとんどのドイツ人は驚いて興味を示し喜んでくれます。現在、英語は世界共通語として海外では話せて当たり前なのが風潮なので、その中で第三ヶ国語が話せるのは自分の強みであり、自信にもなります。留学を経験したことによって、外国人に対しての言語のバリアが無くなったのも大きいですが、それよりも臆せず堂々と対応できるようになったことが一番のメリットだと思います。ドイツで様々な国の留学生と一緒に学び、彼らの文化に触れた経験は、今の仕事において同僚と接する上でよく似た感覚を覚えます。

就活での業種選択のきっかけは留学

留学前は、将来就きたい職種の見当もついていなかったのですが、留学経験が現在の旅行業を選ぶうえで大きなきっかけとなりました。留学を経て色々な国の人と出会ったことで、海外と日本を何らかの形でつなげるような仕事がしたいという思いが強くなりました。就活では、語学力や視野が広がったことのほか、留学中に週2日程、アメリカの学生が学ぶ日本語クラスにTAとしてボランティアで参加し、宿題の添削やクラス運営を手伝ったことなど、さまざまな活動に積極的にトライしたことをアピールしました。たくさんの友人、たくさんの経験ができたので、苦勞もりましたが、心から留学してよかったと思います。学生時代にこのような貴重な経験ができたことは財産です。もし少しでも留学したいという気持ちがあるのなら、ぜひ挑戦してほしいです。たとえ語学に自信がなくても、留学先では自分でなんとかするしかありません。そういう状況になったとき、今まで気付かなかった自分の一面が見えてくることもありますし、ひとりで乗り越えれば自然と自信が得られるでしょう。



ユタ大学メフトチームの試合観戦



自転車競技の国際大会で

池田 栞さん

京王観光株式会社 (旅行業) 勤務

留学先
ユタ大学
(米国)
2013年3月~
12月

自身の留学経験や語学力を活かして留学の手配や国際案件を担当

現在勤めている旅行会社では、留学の手配を行う仕事柄、自分の留学期間の経験がそのまま役立っていると感じます。留学するにあたり、どのような準備が必要か、現地でのようなことが求められるか、学生さんへのアドバイスもしています。また、留学関係の仕事以外にも、学生時代に身に付けた語学力のおかげで、国際学会の案件、スポーツの国際大会の案件などを担当しています。スポーツの案件では、自転車競技やボルダリングなどのオリンピック種目の担当として世界中の選手と関わるなど、試合・大会運営を支えるスタッフの一員として裏方のサポートをしています。



インターンシップ先の仲間と

大川 博生さん

株式会社NTTドコモ (通信) 勤務

留学先
アメリカン
大学
(米国)
2013年8月~
2014年5月

就活ではインターンシップ留学の経験を前面にアピール

私は大学一年次から就職活動を強く意識し、企業のインターンなどの就職活動が本格化する大学三年次までに自分を磨きたいという思いが強くなりました。また、海外での就業経験、とりわけ実践的に業務に携わることが就職活動において自身のアピールに繋がるとも考え、二年次にアメリカン大学へ留学しました。就職活動中は営業職を希望しており、海外での学習経験に加えて海外でのインターン経験についてアピールをしました。国内では体験することのできない長期の実践型インターンシップという就業経験は面接においてインパクトがあり、企業側の質問も実業務に関わるものが多くあった印象です。特にグローバル展開するメーカーや外資系企業の就職活動においては、有利に働くのではないかと考えていたことも事実です。実際にインターンシップ先では日本メーカーの製品を海外の企業へ仲介販売する業務に就いていたため、面接でも「どんな成果を挙げたのか」「仕事上の困難と乗り越えた方法」「仕事をする上での工夫」などを聞かれることがありました。取り扱う製品が高額で

立ち上げたばかりの事業においては、「売上×億円」「前年比××倍の収益」という成果を推して面接に臨んでいました。海外志向の強い企業においては留学および海外での勤務経験を高く評価していただいたと感じています。

今後のキャリア選択肢も広がった

留学して一番ありがたいと思うのは順応力がついたこと。良くも悪くも留学は自分の管理能力が必要になるので、社会人になってからも、あれほど大変な経験はなかったと感じています。現在は全国転勤型の採用で沖縄での勤務に従事していますが、留学と比べると日本国内で環境に適応するのは容易ですし、その部分を評価してもらえることもあると思います。また、国外業務がほとんどない業種であるため、留学経験が直接的に現在の仕事に活かされている実感はありませんが、海外でのOJTや国際事業など自身の今後のキャリアについて選択肢を広げることができたように思います。

人生経験として留学のススメ

語学力を伸ばすだけでなく、人生経験として留学をオススメします。自由な環境のなか自己責任で学ぶことは楽しくもあり、その分、苦勞もしますが、社会に出る前にそういった環境に身を置くことで周囲とは一味違った人材になることができると思います。また、学ぶ意欲がなにより試されますので、専門的な分野を学びたい方、日本とは異なる専攻で学習したい方など、ぜひ挑戦していただきたいです。



留学修了証を手伝った仲間と

留学経験が現在もパワーの源

留学中や帰国後の勉強で英語力を向上させることができ、現在あまり不自由を感じずに仕事に英語を使えていることは、留学経験のおかげであると感じます。また、留学中または帰国後に留学期間を振り返ることで養った、自分が動かなければ何も始まらないという感覚は業務を行う上で、そして社会人として生活する上で非常に役立っていると感じています。社会人になると、時間の大切さというものを感ずる場面が多々あります。使い方次第ではありますが、学生時代のように自由にできる時間は非常に限られます。学生の皆さんには自由に使える時間がある今、可能性を広げるための旅をしてほしいと思います。留学経験者は、自身の留学期間についてかけがえのないものだったと語ります。私自身も社会人になった今、学生時代の経験を振り返ることで力をもらっています。本当に？と思われる方もいるかもしれませんが、そんな方こそぜひ留学を一步踏み出してみてください。帰国後、きっと同じことを語るようになると思います。



ベースの町並み



日本へ留学生向けのオリエンテーション

三井田 瞳さん

NTN株式会社 (製造業) 勤務

留学先
マードック
大学
(オーストラリア)
2014年2月~
11月

海外で直面した高い壁とそれを乗り越えて得た自信

日本で毎日当たり前のように整えてもらっていた環境を留学中は自分で行動して確保しなくてはならないこと、これまでどれだけ家族や周りの人々が私の生活を豊かなものにしてきていたということに初めて気がつき、落ち込むこともありましたが、しかし、落ち込んでいても何も変わらない、自分から行動することで全て動いていくのだということをもっと感じ、そこから人と人の繋がりの大切さを学ぶことができました。就活中の面接では、必ずと言っていいほどこれまでの人生でつらかったこと、またそれを乗り越えた方法を問われました。私にとっては、留学経験こそがまさに人生で辛かったことであり乗り越えて大きなものを得られた経験であったので、留学中に自分が経験してきたことをありのままに語りました。